

御宿町における地域再生計画について ～持続可能な地域を目指して～



○御宿町の現状と課題 1

●人口の減少と高齢化

- ・町の人口は、昭和30年に御宿町が誕生して以来、一貫して減少しており、今後も、急速な減少が見込まれている。
- ・出生率の低下や若者の減少等により、総人口に占める高齢人口の割合が上昇している。

●観光客の減少と産業の衰退

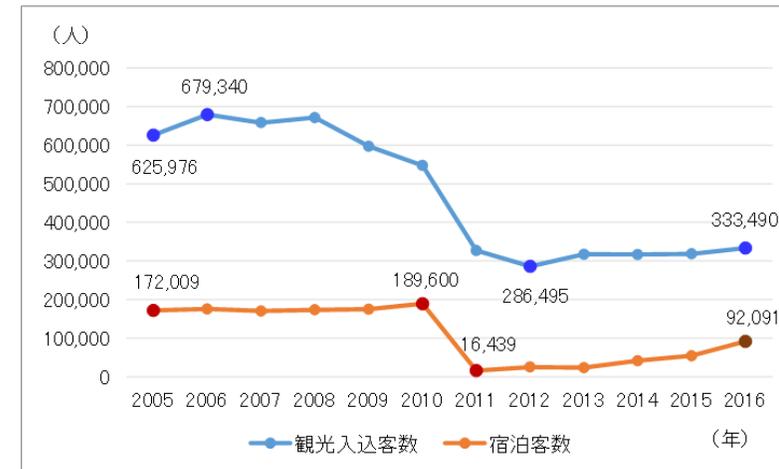
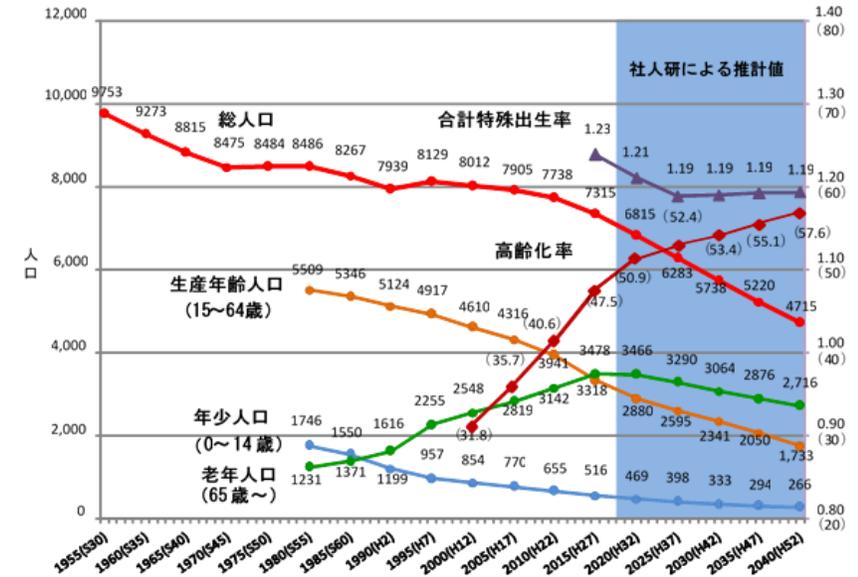
- ・海水浴客の減少や旅行形態の多様化などにより観光入込客数、宿泊客数ともに減少している。
- ・生産量や販売量、漁獲量の減少、販売価格の低迷、従事者の高齢化や後継者不足などのため、各産業ともに低迷している。

●医療、看護、介護の不足

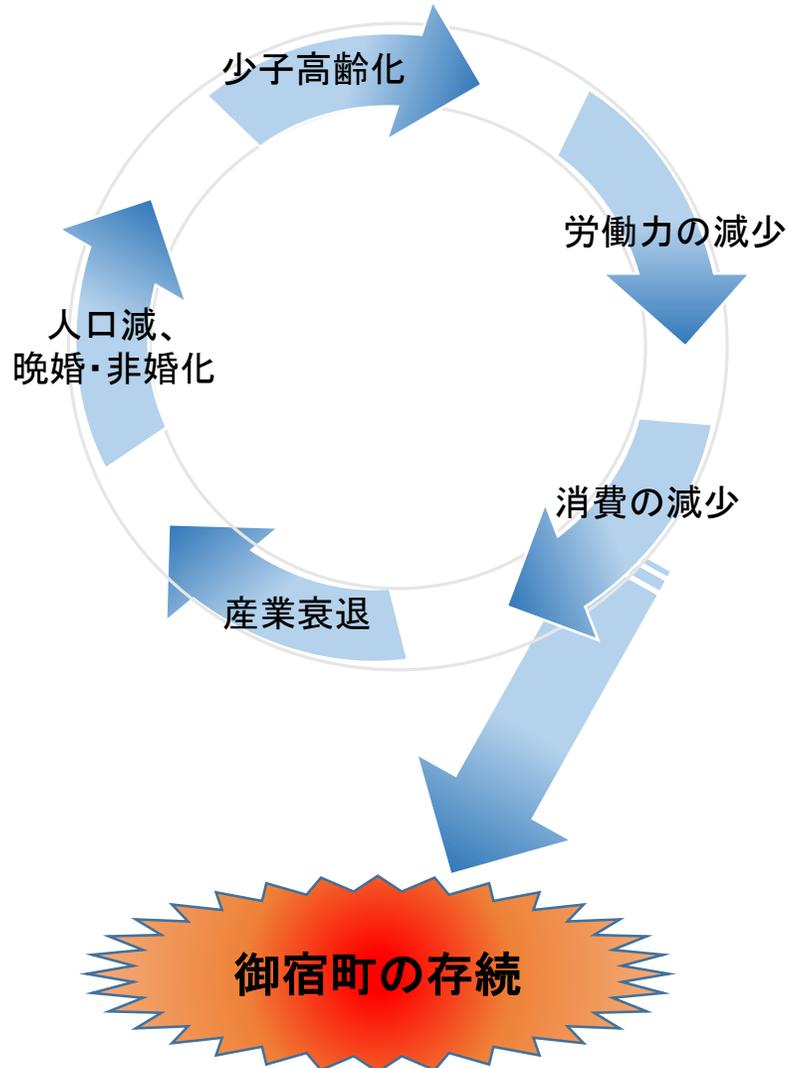
- ・要介護等認定者、介護サービス利用ともに増加している。
- ・町内には、診療所は3か所、歯科診療所が4か所あるが、夜間や救急は町外の病院を利用している。
- ・町内に24時間体制をとる訪問看護、介護事業者はいない。

●その他

- ・耕作放棄地や空き地、空き家が増加している。
- ・有害獣が増加し、農作物の被害だけでなく、安全なくらしにも影響が出始めている。
- ・町の税収や交付税収入が減少し、必要な行政サービスの継続が困難になる恐れ。

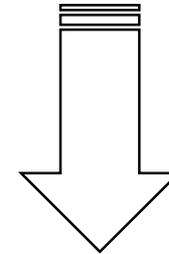


負の連鎖



◎負の連鎖を止めには、様々な分野で早急な対応が不可欠！！

- ・雇用の場、就業機会の創出
- ・高齢者の活躍の場の創出
- ・観光、集客の増加
- ・結婚、妊娠・出産・子育てに係る支援
- ・医療、介護、看護の充実
- ・教育の充実
- ・移住者(UJIターン)の増加
- ・企業誘致と産業の振興
- ・まちづくりを担う人材の育成



御宿町まちひとしごと創生総合戦略

《基本目標A》 地域産業の創生と雇用の拡大

- ①観光資源のネットワーク化と近隣自治体と連携した観光の魅力アップ
 - ・近隣市町村との連携事業、地域の魅力発信
- ②観光資源の発掘と時代のニーズに対応した取組み
 - ・まちづくり人材の育成・確保に向けた取組み、新たな雇用創出に向けた取組み
 - ・地域資源(里山・里海)を活用した新たな魅力づくり
- ③商工業の振興と新たな取組みへの挑戦
 - ・各種産業間の連携強化と起業支援事業
- ④ICT(情報通信技術)の充実による住居と職場、保養地の一体化
 - ・情報通信技術(ICT)の活用事業、企業誘致、雇用促進奨励金
- ⑤農・水産業の持続と6次産業化の推進
 - ・新たな農産物の取組み、有害鳥獣対策事業
 - ・6次産業化の取組み



《基本目標B》 移住促進と交流人口の増加

- ①若者の移住・定住化を促進
 - ・定住化促進体験ツアー、農業、里山体験事業
- ②豊かな自然環境の活用と生活環境づくり
 - ・町内の美化対策事業、空き家等対策計画の策定
- ③大学との連携による知の拠点づくり
 - ・おんじゅくON19サミットの開催、大学ゼミ合宿、ガイダンス等による地域交流事業



《基本目標C》 安心して子育てできるまちづくり

- ①安心して子どもを産み育てることができる環境づくり
 - ・子育て相談の実施、地域子育て支援拠点事業
- ②仕事と家庭の調和の実現
 - ・子ども放課後週末活動等支援事業
- ③特色ある教育活動の充実と安心して安全な学校づくり
 - ・地域活力を活かした特色ある教育、大学連携、ボランティア協力等による学び、集い合う環境づくり
- ④地域全体で支え育てる環境づくり
 - ・子育て、相談しやすい環境整備事業



《基本目標D》 高齢者が安心して住み続けられる環境づくり

- ①御宿版CCRC構想の策定に係る検討・推進
 - ・介護、医療サービス企業の誘致、御宿版CCRC構想の策定、推進
- ②予防施策の推進及び地域医療の充実
 - ・地域医療の充実、介護予防普及啓発事業



《基本目標E》 好循環を支えるまちづくり

- ①持続可能な地域公共交通の確保と利用促進
 - ・御宿町地域公共交通事業、鉄道事業者との連携による御宿駅エレベーター整備等のバリアフリー化
- ②安全で効率的な公共施設運営
 - ・町有地の利活用事業
- ③消防団員の確保や自主防災組織の活動支援
 - ・消防団員確保、自主防災組織の育成、災害情報システム等の活用
- ④生涯学習の推進と環境整備
 - ・生涯スポーツの推進と健康づくり事業、大学との連携による公開講座の開催



○御宿町の目標（2016年～2020年）

①産業の活性化



①雇用の創出と稼ぐ力の向上



①人口対策と地域の魅力向上



①安全・安心な環境づくり



○計画の目標

町の課題である人口減少、高齢化、そして経済の活性化に対応していくため、地域の自然環境や都心に近い地理的条件、農産物・海産物などを活かしながら、行政と地域住民をはじめ、大学や高校、企業が協働・連携し、御宿町に暮らす者並びに訪れる者が、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、皆が心豊かに暮らすことができる「生涯活躍のまち」を目指します。

○計画期間

2018年4月1日～2023年3月31日(5か年度)

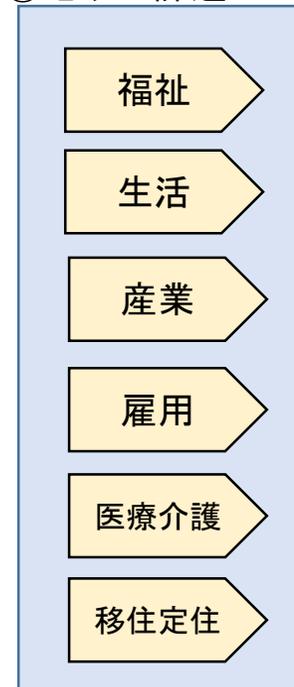
○具体的な取組み

住民と行政の協働により、

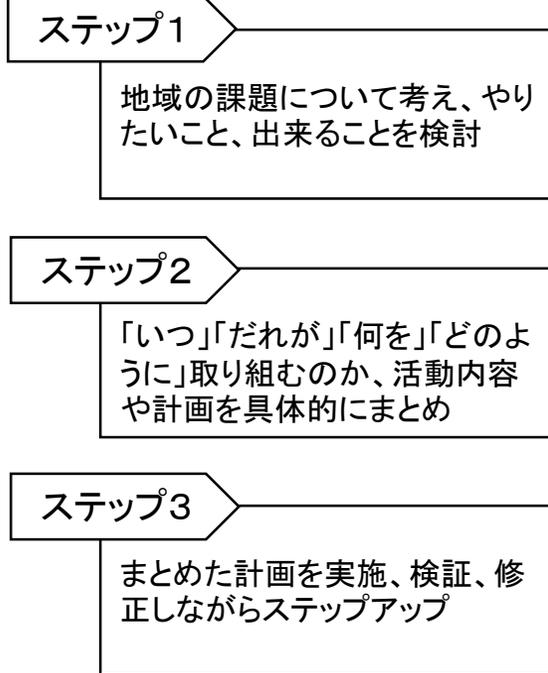
- (1)生活支援・支え合いと多世代交流の仕組みづくり
- (2)地域資源を生かした「にぎわい」の創出
- (3)人材の育成と移住促進
- (4)地域包括ケアシステムの構築
- (5)移住・定住や雇用等に関するニーズ調査と情報発信

などを実施し、地域住民と移住者が安心して暮らせるまちづくり、自立した持続可能なまちづくりを進めていきます。

①地域の課題



②課題への対応

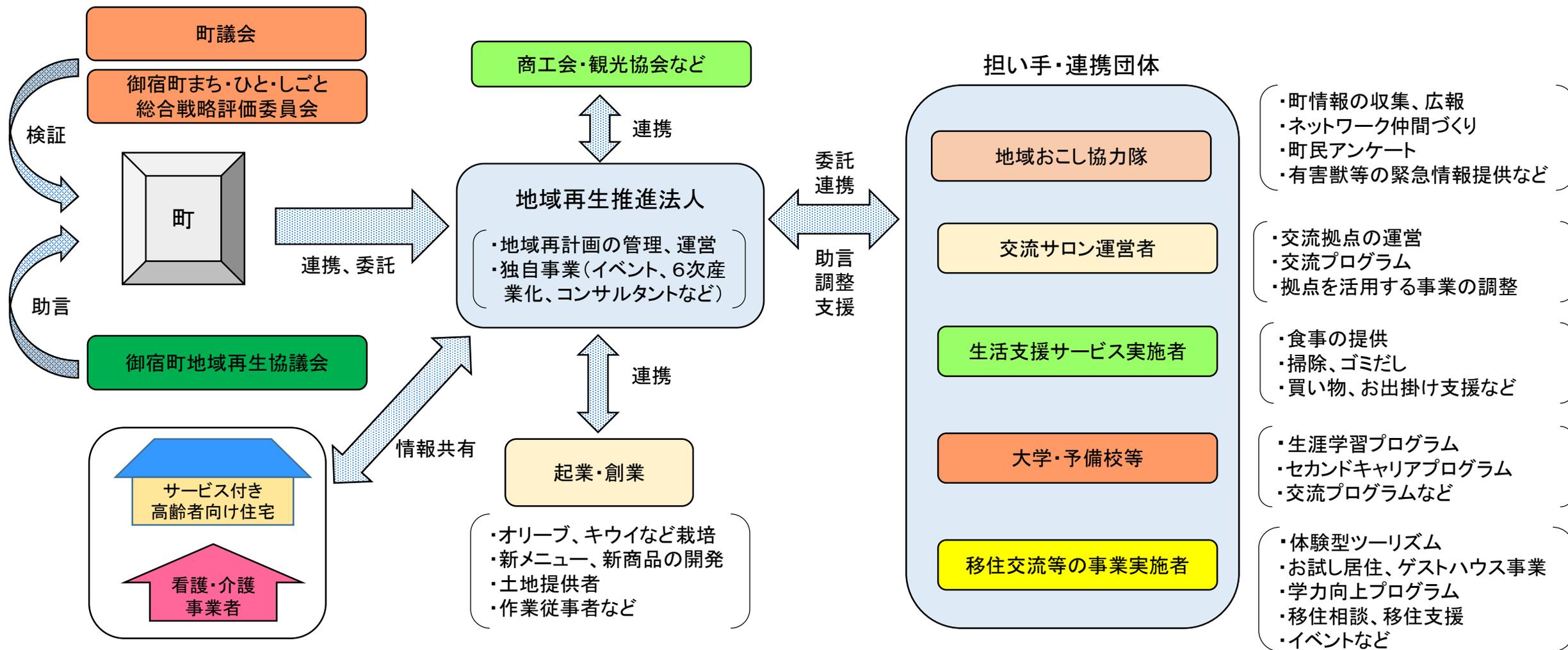


○計画の全体イメージ

○行政(町)と地域再生推進法人、各事業の担い手、大学・予備校、地域おこし協力隊が連携して、地域住民や移住希望者、観光客等が必要とするサービスや事業を有償で実施する。

○地域再生推進法人は、担い手や連携団体により構成することを想定

○担い手・連携団体の事業が自立していくには、行政からの委託が受けられる体制づくりや収益性の高い事業との兼業が不可欠



(1)生活支援・支え合いと多世代交流の仕組みづくり 1

◎交流の仕組みづくり

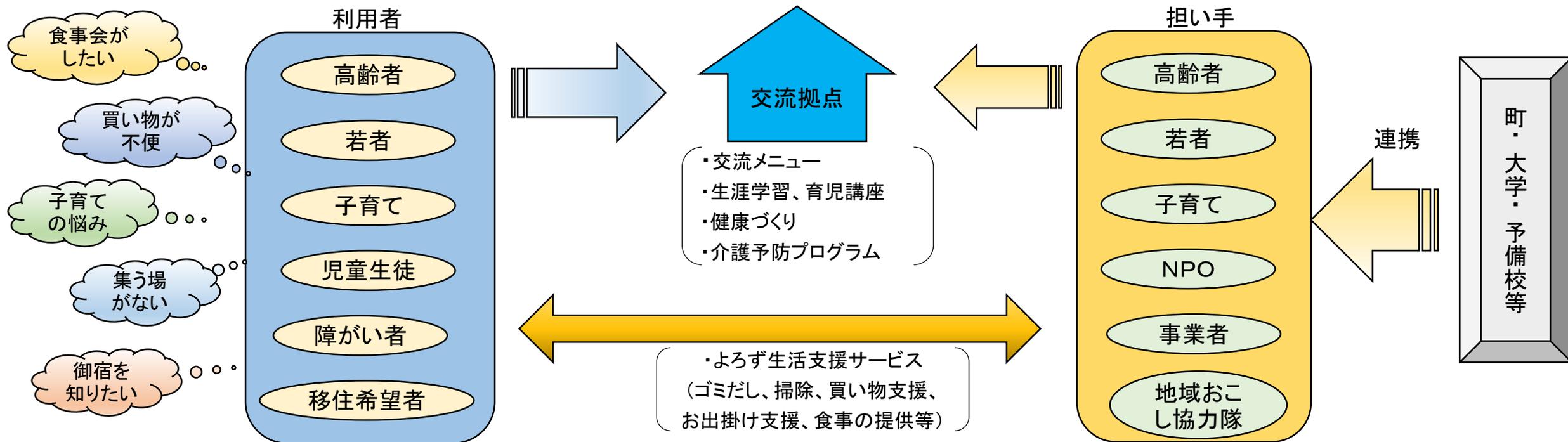
○町が高齢者や子育て世代をはじめ、多世代の方々が交流できる「交流拠点」を確保します。

○その拠点を活用して“担い手”が行政や大学、予備校等と連携して、介護予防や健康づくり、育児などに役立つ講座や、生涯学習やセカンドキャリアの形成に役立つ各種のプログラムを実施します。

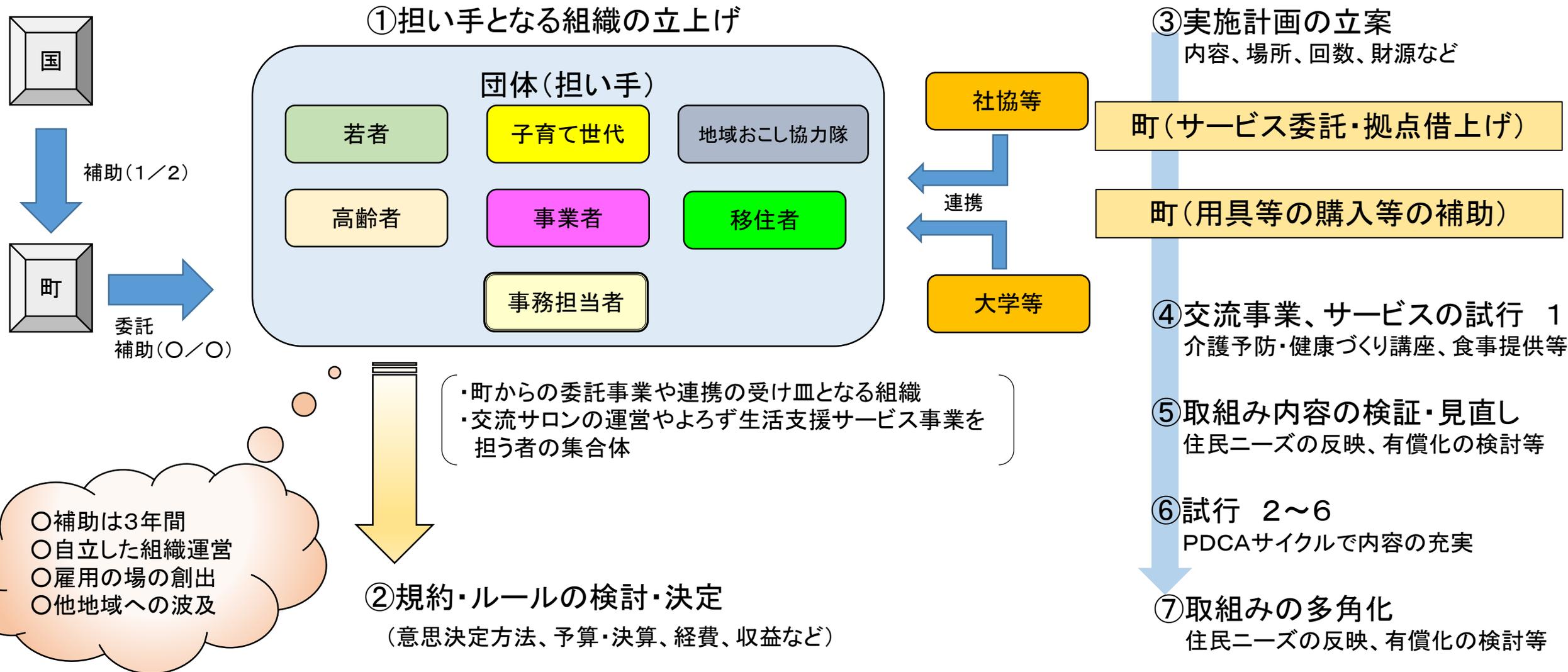
◎生活支援・支え合いのサービス事業(よろず生活支援サービス事業)

○“担い手”が、行政と連携して、高齢者をはじめとする支援が必要な者に対する掃除やゴミだし、買い物支援、買い物代行、お出掛け支援などのよろず生活支援・支え合いのサービスを安価で実施する仕組みをつくりまします。

◎交流拠点の利活用やよろず生活支援サービス事業を有償化し、事業の継続を図るとともに、雇用・就業の場を創出します。

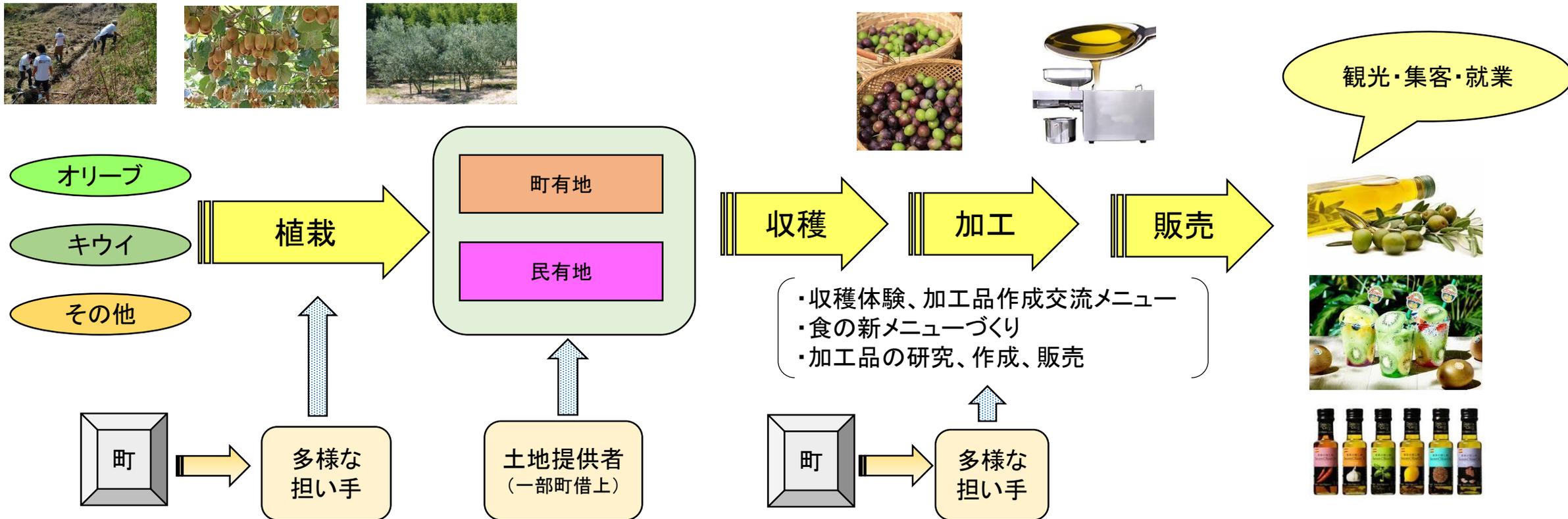


◎交流サロン、よろず生活支援サービス事業の具体的な取組みのイメージ



(2) 地域資源を活かした「にぎわい」の創出 1

- “担い手”と行政が連携して、健康づくりや介護予防等に効果があり、御宿町のイメージづくりにも資するオリーブをはじめとする果樹の栽培に取り組みます。
- 農家、旅館業者、飲食業者、漁業者、土地所有者、学校などのほか、植栽や加工への従事者など、多様な者が連携して“担い手”となります。
- 植栽場所は、町有地の活用を含め、耕作が困難となった畑や未利用の土地などにも広く求めていきます。
- 果実だけでなく、魚介類などの地域の産物を活かした食のメニューや商品を開発・利用します。
- 新たな地域の特産品を生み出し、一層の観光振興、集客を図るとともに、就業・雇用の場を創出します。



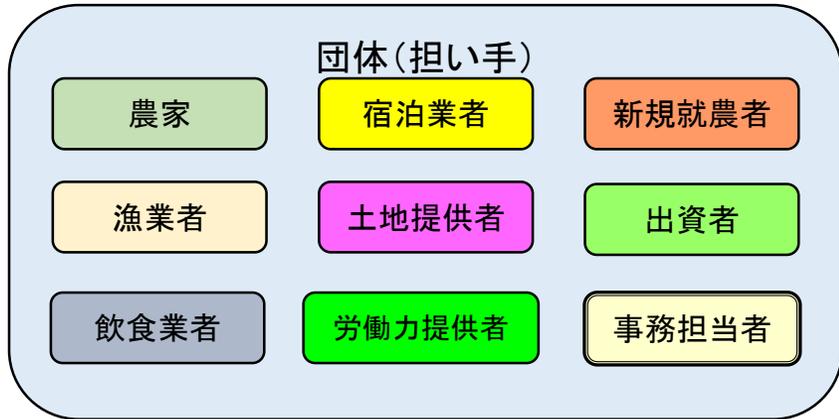
◎オリーブ等の果樹栽培の具体的な取組みのイメージ(A案)

- ・果樹の植栽、収穫、加工、販売を担う者の集合体
- ・団体では、町からの補助金等を活用しながら、知識や技能の習得のための研修会や、観光集客のための体験プログラム作成や新メニューの作成のための講習会や交流会などを行う。
- ・具体的な栽培や加工、販売は、それぞれの担い手が、町からの補助金などを個々に活用しながら実施する。

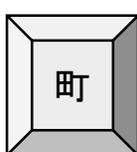
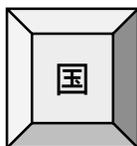
①主体となる組織の立上げ

②規約・ルール決定

(会費・負担金、意思決定方法、予算・決算、事業計画など)



- ③植栽計画の立案(個)
場所、本数、植栽手順、作業員など
- ④苗木、培養土等の購入(個)
補助金の収受、必要物品の購入など
- ⑤植栽の実施(個)
町有地、民地(自己所有、借上)に実施
- ⑥手入れ・管理(個)
除草、害虫駆除、施肥など
- ⑦試作品や体験メニューの検討(団体)
果実オイルを購入し試作品等の研究
- ⑧収穫(個+団体)
観光集客、体験メニュー化
- ⑨加工・販売(個+団体)
新商品、観光集客、体験メニュー化



補助(1/2)

補助(〇/〇)

補助(〇/〇)

農家
(土地所有)

農家
(土地借入)

土地提供者
労働力提供者

新規就農者
(土地借入)

顧客

漁業者

販売

宿泊業者

飲食業者

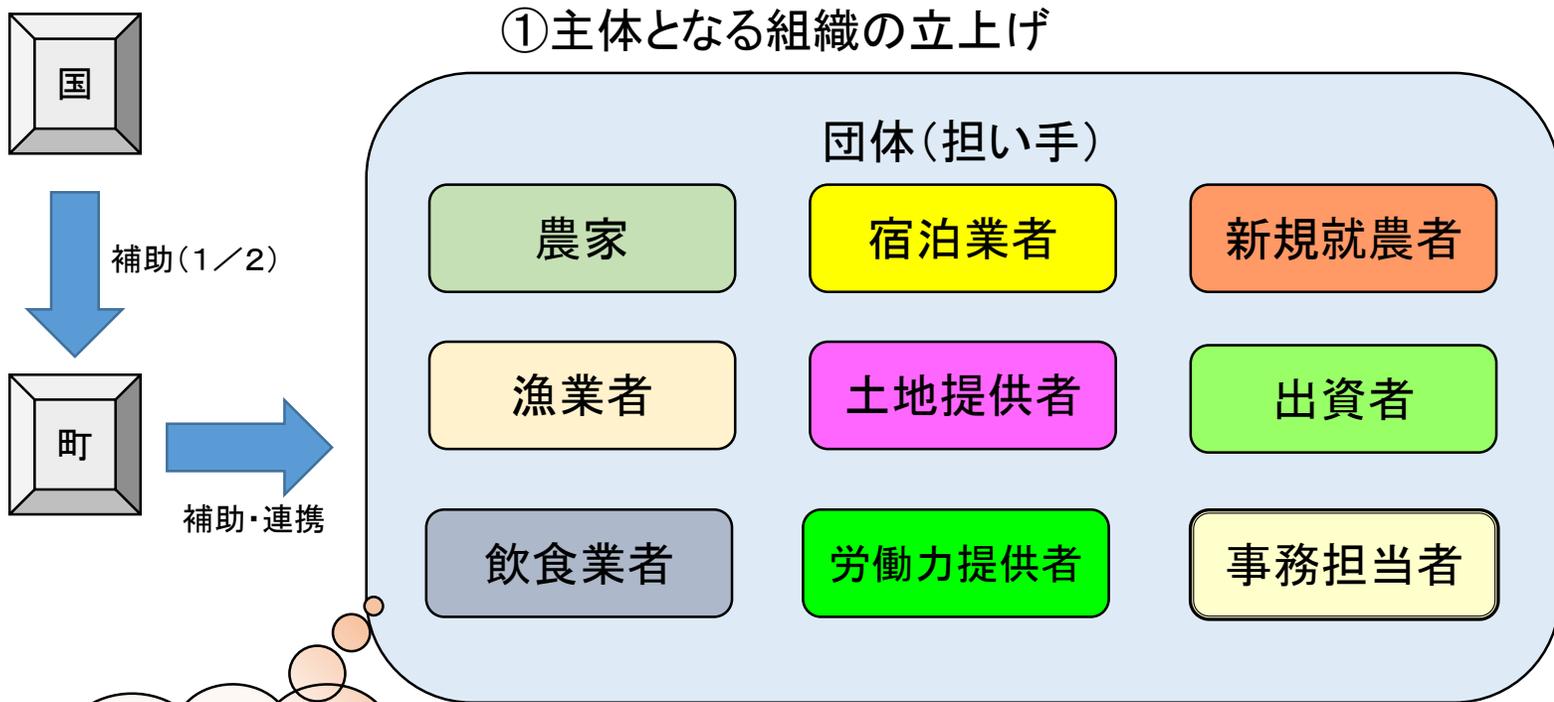
消費者

販売

町(搾油機購入・作業拠点借上げ)

◎オリーブ等の果樹栽培の具体的な取組みのイメージ(B案)

- ・果樹の植栽、収穫、加工、販売を担う者の集合体
- ・団体として、栽培や加工・販売に係る計画を立案し、実施していくイメージ
- ・町からの補助金を団体として受け、団体内で作業内容や植栽本数等に応じて分配する。



- 補助は3年間
- 自立した組織運営
- 雇用の場の創出
- 集客と利益の向上

②規約・ルール決定

(会費・負担金、意思決定方法、予算・決算、費用負担、事業計画など)

③植栽計画の立案

場所、本数、植栽手順、作業員など

④苗木、培養土等の購入

補助金の収受、必要物品の購入など

⑤植栽の実施

町有地、民地(自己所有、借上)に実施

⑥手入れ・管理

除草、害虫駆除、施肥など

⑦試作品や体験メニューの検討

果実オイルを購入し試作品等の研究

⑧収穫

多業種連携、体験メニュー化

町(搾油機購入・作業拠点借上げ)

⑨加工・販売

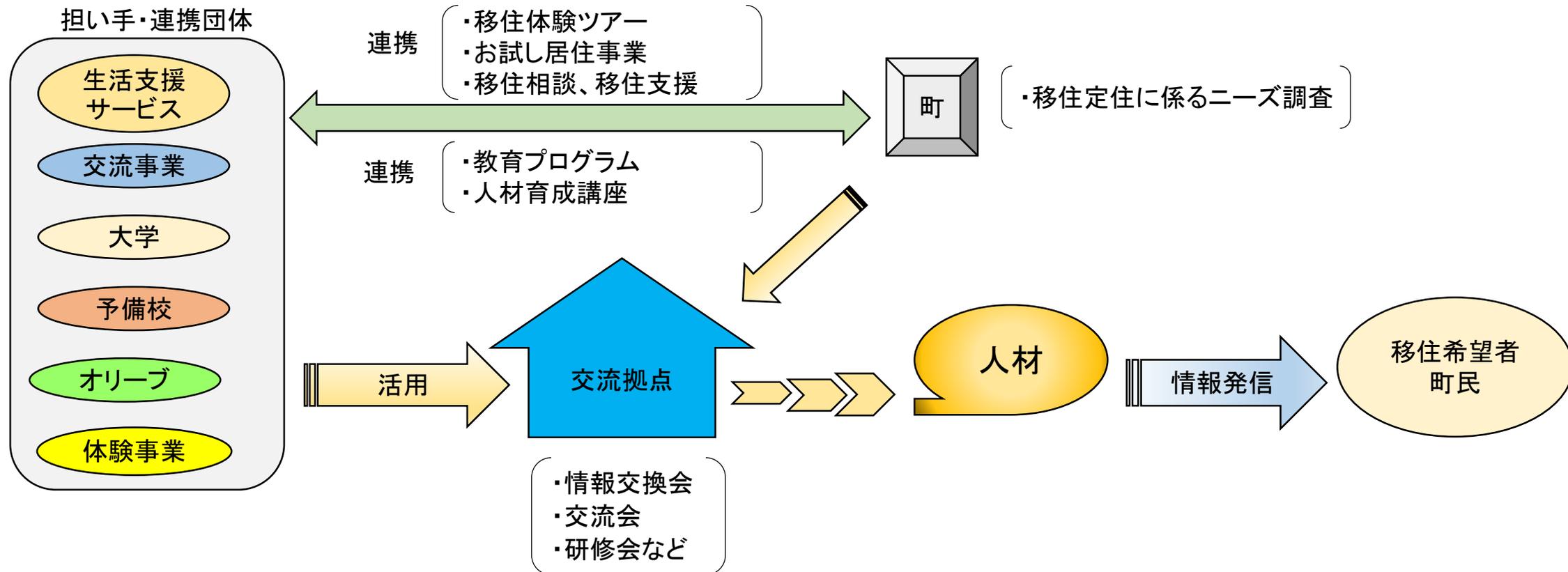
多業種連携、体験メニュー化

⑩利益の分配

個々の収益と団体の運営経費の捻出

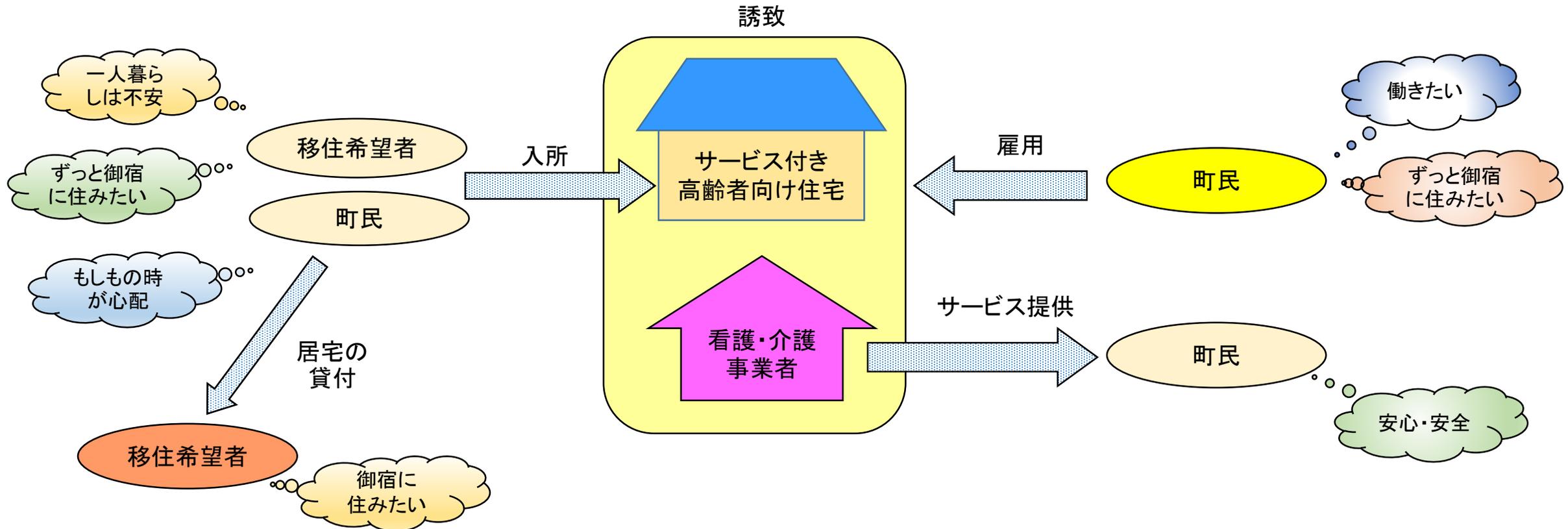
(3) 人材の育成と移住促進

- 各種の取組みについて、「交流拠点」を活用し情報交換や交流会を実施し、横の連携を広げ、その効果を高めていきます。
- 地域の取組みを広く発信し、町外からもまちづくりに関心のある者や、知識・技能を有する者を募り、連携・協力していきます。
- 新たな移住者の呼び込みや町民の転出防止を図るため、実情やニーズを調査し、施策に反映させていきます。
- 移住のきっかけづくりとなるよう、移住体験ツアーやお試し居住事業を官民連携で再構築します。
- 予備校と連携して、基礎学力の向上や特色ある教育プログラムを実施し、教育に関する不安の解消を図ります。



(4) 地域包括ケアシステムの構築

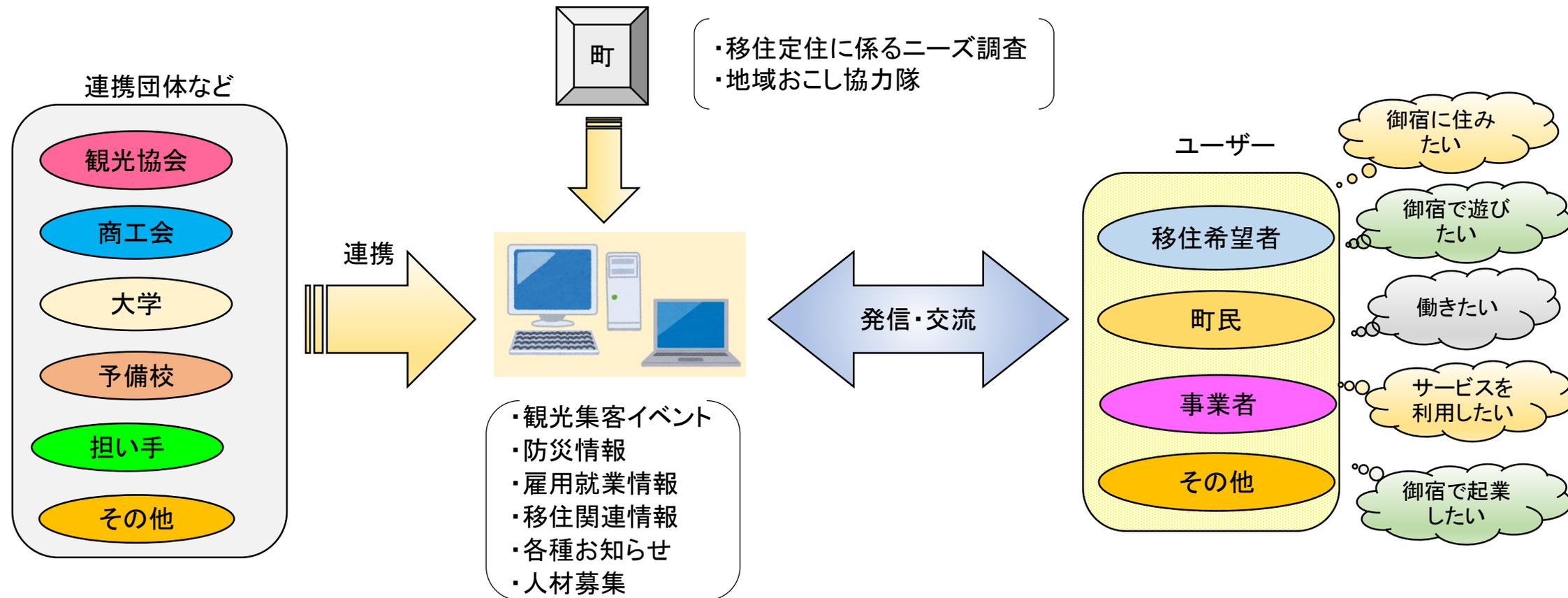
- 高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯が増えていることから、サービス付き高齢者向け住宅事業者の誘致を図り、住まいの選択肢を広げ、介護に関する不安の解消を図ります。
- 定期巡回型・随時対応型訪問看護事業所や夜間対応型訪問介護事業者の誘致を図り、在宅サービスの拡充を図ります。
- 介護や看護事業者の誘致により、住みなれた地域で生涯にわたって安心して暮らし続けることが出来る環境づくりと雇用の場の創出を図ります。



(5) 移住・定住や雇用等に関するニーズ調査と情報発信

○新たな移住者の呼び込みや町民の転出防止を図るため、実情やニーズを調査し、施策に反映させていきます。

○町の情報やイベント等に関する情報、御宿町ならではの暮らしやライフスタイル、おすすめ情報などについて、発信・交流するためのサイトを立ち上げます。



地方創生推進交付金事業 御宿町生涯活躍のまち推進事業 ~ 平成30年4月1日 国が認定 (平成30年度中修正)

○地域再生計画「生涯活躍のまち・おんじゅく(おんじゅくまるごと生涯活躍・安心のまち)」に掲げた各種の事業を実施していくために、地方創生推進交付金を活用(事業名:御宿町生涯活躍のまち推進事業)します。

○総事業費

71,680千円

○事業期間(交付金を受けられる期間)

2018年4月1日~2021年3月31日(3か年度)

○補助率

対象経費の1/2

○成果指標

地域再生計画(5か年度)の重要業績評価(KPI)は下表のとおりです。

地方創生推進交付金(3か年度)のKPIは下表の2020年度までとなります。

目標内容	事業開始前 (現時点)	2018年度 増加分 1年目	2019年度 増加分 2年目	2020年度 増加分 3年目	2021年度 増加分 4年目	2022年度 増加分 5年目	KPI増加分の累 計
移住者の数(新規)	0人	1人	3人	6人	7人	10人	27人
移住相談者の数(新規)	0人	10人	25人	40人	45人	50人	170人
交流サロン利用者の数 (延べ人数、年間)	0人	600人	1,100人	1,200人	1,250人	1,300人	5,450人
就業者の数(新規)	0人	0人	0人	2人	5人	10人	17人